

城南地域の自然的・歴史的資源のまとめ

	<p>岩鼻のトンネルの入口（地図 B-1）</p> <p>昭和初期まで県道上山田線は、このトンネルを通過していました。現在は通行禁止になっていますが、高さ約 180cm のトンネルは昔のまま残されています。</p>
	<p>半過の家並み（地図 B-2）</p> <p>大屋根の上に気抜きが載った蚕室造りの民家が連なる景観は、周囲の山並みとも調和しています。</p>
	<p>千曲公園から見た景色（地図 B-2）</p> <p>大正 11 年（1922）に岩鼻の写真が日本百景に入選したことから公園がつけられました。</p> <p>千曲川との高低差は約 120m あり、札幌市藻岩山に生育することから名付けられたモイワナズナが本州では岩鼻だけに隔離分布しています。</p> <p>ここから城南地域が一望できます。</p> <p>眼下に見える千曲川（214km）は、下流の信濃川（153km）を合わせると全長 367km で日本一長い一級河川です。新潟県に入ると信濃川と名称が変わります。</p>

	<p>天白山（須々貴山）(地図 B-2)</p> <p>半過岩鼻の南隣に位置し、上田原の合戦のときに村上義清が陣を構えたと伝えられています。</p> <p>590 段の石段を登ると、千曲公園とともに城南地域が一望できます。</p> <p>ちなみに、武田信玄は物見山に陣を構えたと伝えられています。</p>
	<p>築地池（地図 B-4）</p> <p>米倉池ともいいます。文化 2 年（1805）45 日間という短期間で造られました。天保 6 年（1835）増築。堤が一部道路として使われています。</p>
	<p>嚮善（きょうぜん）学校正門（地図 B-4）</p> <p>小泉・下室賀・吉田・福田村立学校として明治 10 年（1877）設立。大正 5 年（1916）吉田区に払い下げられ、平成 13 年（2001）に第六中学校の地に移されました。</p>
	<p>福田神社（地図 B-4）</p> <p>祭神は事代主命（ことしろぬしのみこと）・建御名方命（たけみなかたのみこと）・大国主命（おおくにぬしのみこと）。</p> <p>秋祭りには獅子舞が門付けで舞ってくれます。鳥居の「福田」は珍しい字が使われています。隣にある観音堂は、りんご祭りで有名。</p>
	<p>宝池（地図 B-4）</p> <p>福田池ともいいます。享保 19 年（1734）築造。文化 14 年に（1817）修築しています。</p>

	<p>古池（地図 B-4）</p> <p>仙石氏が上田に移封したころには既に築かれていたといわれるほど古くからある池です。天明 2 年（1782）増築され、きれいな菱形をしています。池を造った記念として建てられたと言われる「青木（ ）のお地蔵さん」があります。</p> <p>青木は地域の字名です。</p>
	<p>新池（地図 B-5）</p> <p>四角い形から枡池ともいいます。小高い丘の上にあるので、地元の人には上池ともいいます。明和 8 年（1771）に願い出して翌年完成しました。</p>
	<p>沢田池（地図 B-5）</p> <p>昭和 21 年（1946）築造されました。</p> <p>高い位置にある池なので、郷戸から横山池の側を通して水が運ばれているそうです。</p>
	<p>屋代源吾・小島権兵衛の墓（地図 C-2）</p> <p>天文 17 年（1548）上田原合戦の際、武田軍を窮地に追いやった村上軍の武将の墓が、下之条の水田地帯に残っています。</p>
	<p>弓立神社（地図 C-3）</p> <p>昭和 3 年（1928）に拝殿が改築されました。</p> <p>本殿は流れ造りで、棟飾りが「鬼瓦」ではなく「鬼板」になっているのが珍しいです。</p>



旧産川跡（地図 C-3）

明治 44 年（1911）に産川橋から堀川橋までを掘り割り、それまで湾曲していた川筋を真直ぐに変えました。旧河床は埋め立てられ、采女田団地になっています。



倉沢家住宅（地図 C-3）

倉沢家は長い間小泉組の割番を務めた旧家で、建築年代は 17 世紀の中期から後期と推定されています。付属建物がそろっている点でも貴重。県指定建造物。



築地の家並み（地図 C-3）

旧街道沿いに並ぶ蚕種家「北南館」と蚕室造りの民家から、歴史が感じられます。

「北南館」には、井戸や幾つもの蔵が保存されています。



二線路（地図 C-4）

明治維新後、長野県の道路開削事業として明治 23 年（1890）に上田～松本間にできた道路。三好町～青木間は幅員 3 間で、ほとんど真っ直ぐの道路です。大正 10 年（1921）、この道路上を借用し青木まで路面電車が開通。昭和 13 年（1938）、青木～上田原間は廃止されました。



葦原淵神社（地図 D-2）

大鷦鷯命（みそさざい）を祭っています。古くは、若宮八幡といいました。



板垣信方の墓（地図 D-2）

武田軍の重臣武将。煙草好きで、天文 17 年（1548）上田原合戦の際、一服していた時に、不意打ちに会い戦死したと伝えられ、今でも煙草の供え物が絶えないそうです。



千曲町公園 せせらぎ広場（地図 D-3）

街区公園として市内初の施設で、平成 7 年（1995）にオープン。同 8 年（1996）には、都市景観賞を受けました。



上田嶋長太郎の碑（地図 D-3）

本名田中長太郎（1832～1911）は中之条に生まれ、しこ名を上田嶋として大年寄にまでなりました。明治 40 年（1907）に有志により記念碑が建立されています。



上田原資料館（地図 D-3）

明治 22 年（1889）に上田原、下之条、築地、神畑が合併し、川辺村となったときの役場として使用されていた建物です。中には農具・什器などの民俗資料が多く保存されています。

見学したい方は、予約が必要です。



石久摩神社（地図 D-3）

建御名方命（たけみなかたのみこと）・事代主命（ことしろぬしのみこと）・八坂刀売命（やさかとめのみこと）を祭っています。

上田原合戦の主戦場でもありました。



上田原石造五輪塔（地図 D-4）

鎌倉時代初期のすぐれた作品と考えられ、昭和 61 年（1986）に市の指定文化財に指定されました。特にすばらしいのは、水輪の中央に薬研彫りで刻まれた梵字です。

見学したい方は、予約が必要です。



長池（地図 D-4）

仙石氏時代の慶安元年（1648）上田原村の東南、倉升山麓に築造されました。西の池、中池、東池の三池から成り、水源は諏訪方山の溪水で、須川池からも通水しました。

昭和 59 年（1984）に東、中池が埋め立てられ創造館・長池公園ができ、現在は西池だけが残っています。



加美畑（かみはた）神社（地図 D-4）

祭神は建御名方命（たけみなかたのみこと）です。命が出雲より信濃の国に下降の際、生島足島への途路当所に留まり治水、産業を興しました。命が留まった場所を「御着」、そして神の幡が「神畑」と称されるようになったと伝えられています。境内には蚕影社、疱瘡社、阿夫利社、神明社、秋葉社、飯綱社が合祀されています。



神畑山超誓（ちょうせい）寺（地図 D-5）

永禄 11 年（1568）開山された知恩院直末の寺院です。寛政 4 年（1792）に全焼しましたが、天保 14 年（1843）に本堂が再建されました。再建に際しては、信濃国分寺の金堂の建替えて不要になった古材を 18 両で購入したことが史料に残されています。その後平成 7 年（1995）に大改修、修理が行われました。



薬師堂（地図 D-5）

超誓寺境内にある薬師堂は、平成 7 年（1995）落雷により消失し、翌 8 年（1996）に再建されたものです。現在も「お薬師様」としたわれ、秋の祭には大勢の人々が参詣しています。この薬師堂は初め神畑山山峰（薬師平）にあり、その後狐ヶ原、産川べり、そして超誓寺へと位置を移しています。



神畑公民館（地図 D-5）

清涼殿ともいうような荘厳の感じを持つ公民館。戦後間もない昭和 27 年（1952）1 月に竣工。当時の川辺時報に「広間、貴賓室、会議室、図書室、調理室、映写室、小使室を持ったモデル公民館・・・」と報じられています。途中幾度か修理、補強され現在も自治会活動の拠点として区民に利用されています。



火伏せ祭井戸（地図 D-5）

昭和 33 年（1958）に水道が敷設されるまで生活用水として使用していた共同井戸。かつては隣近所総出で井戸の掃除（井戸がえ）をし、その労をねぎらっていました。現在も毎年 4 月 2 日は「火伏せ祭」として往時を偲んで宴を持っています。平成 21 年（2009）4 月、特色あるまちづくり応援事業で手塚家の井戸を使い、井戸かえが復活されました。



六ヶ村堰（地図 D-5）

小牧、諏訪形、御所、中之条、上田原、神畑の旧六ヶ村の灌漑用水で真田氏の頃に開発されていたといわれています。水量が豊富なので唐臼堰と合流し、産川へ落ちた水をまた下流の北沖で取り入れ、築地池方面への四ヶ村堰へ流しています。



四ヶ村堰（地図 D-5）

小島・福田・吉田・築地の四ヶ村が利用する用水。以前は六ヶ村堰から産川へ落ちた水を少し下流で取入れていましたが、現在は六ヶ村堰から直接橋を使って取り入れています。



御所の筆塚（地図 E-3）

寺子屋の田子栄三（えいさん）先生を記念し、嘉永 6 年（1853）に建立されました。



亮功（りょうこう）学校跡（地図 E-3）

明治 6 年（1873）から亮功学校の仮校舎として御所の祥雲寺が使われ、同 10 年（1877）に亮功学校は中之条に移転し、諏訪形に若宮学校がつくられました。同 26 年（1893）に両校を統合して城下尋常高等小学校が上田電鉄城下駅西方に開校されました。



中之条の路地（地図 E-3）

かつて養蚕や蚕種で地域が潤った名残を感じることができます。



宮川神社（地図 E-3）

天文 21 年（1552）の上田原合戦の際、武田軍が必勝の神願を行い、戦後に永銭 30 貫文を奉納してから、毎年正月 15 日に武田信玄神願の綱と称するしめ縄を張り、飾り付けをします。



中之条公会堂（地図 E-3）

大正 12 年（1923）に市民の寄付により東北信随一と言われた上田公会堂が建設され、中之条公会堂はそれを模範にしたのではないかと思います。格天井・シャンデリヤ・各室のネームプレートなどに、当時の雰囲気を感じられます。

	<p>上田飛行場跡（地図 E-3）</p> <p>昭和 6 年（1931）に完成した全国で二番目の市営飛行場。現在は、上田千曲高等学校や住宅地になっており、昭和 63 年（1988）に建立された石碑と兵舎の礎石のみが残っています。</p>
	<p>姥懐（うばふところ）の石碑群（地図 E-4）</p> <p>道祖神、庚申塔、馬頭観音など約 20 基の石碑が安置されています。中でも目を引くのが明治 5 年（1872）に建立された寿水斎翁寿蔵碑。これは墨書や生花に秀でた西澤居定の喜寿を祝ったものです。</p>
	<p>射撃場跡（地図 E-5）</p> <p>物見山の倉升地籍に昭和 10 年（1935）代から 20 年（1945）代初期にかけて石炭の採掘を行っていた炭鉱（金城炭鉱）がありました。昭和 24 年（1949）に閉山されましたが、その後一時、警察官の射撃練習場として使用されていたことがありました。</p>
	<p>物見山（御陣ヶ入・御陣ヶ原）（地図 E-5）</p> <p>天文 17 年（1548）武田晴信（信玄）が村上氏と上田原合戦をしたとき、武田軍が陣を構えた所とみられています。ここから村上軍が陣を構えた天白山とともに城南地域一帯が一望できます。</p>
	<p>御所伊勢社（地図 F-3）</p> <p>本殿は、国宝仁科神明宮（大町市）と同様な棟持ち柱が特徴の神明造り。上田原の石久摩神社、御所伊勢社、科野大宮社、古里の篠井神社などは同緯度で等間隔に並んでいることから奈良時代の条理制の基準線だったのかも知れません。</p>



旧三好町郵便局（地図 F-4）

明治 36 年（1903）に建てられた洋風建築。

壁はイギリス下見板張り、窓は上げ下げ窓、出入口の入母屋（いりもや）
屋根の庇は三角ペディメントを形作っています。屋根は寄棟（よせむね）
屋根の棧瓦葺きです。



道祖神（地図 F-4）

中村にある道祖神とエノミの木。

昔の子供たちはこのエノミを竹筒で作った紙鉄砲の玉に使ったエノミ
鉄砲で兵隊ごっこをして楽しんだそうです。



小菅訓導碑（地図 F-4）

昭和 4 年（1929）春の遠足の帰り、千曲川に転落した子供を救おうとし
て殉職した小菅武夫先生の殉職記念碑。代用教員になって 25 日目の出
来事でした。



諏訪形の路地（地図 F-4）

明治から昭和初期のたたずまいを感じさせる裏小路。



共同井戸跡（地図 F-4）

昭和 33 年（1958）に上水道が設置されるまで飲料水として何軒かで共
同で使用していた井戸の跡。（3ヶ所）



諏訪神社（地図 F-4）

須波郷の中心地にあったと考えられ、古社（こしゃ）で格式が高い。境内には、日露戦争から第二次世界大戦までの城下地区戦没者 146 柱の招魂碑があります。



金窓寺（地図 F-4）

金窓寺は、言い伝えでは慶長元年（1596）に武田家ゆかりの女性によって作られたといわれ、寺宝としてこの女性が持ってきたという「笈（おい）」があります。

本堂前には、まわり場でお棺を乗せた石の棺台が村内から移され置かれています。



たたら塚古墳（地図 F-5）

1300 年～1400 年前に造られたとされる古墳。タタラは足で踏んで空気を送るファイゴのことから、被葬者は製鉄に関する人と考えられています。昭和 63 年（1988）に市指定古墳に指定されました。



下の山の神（地図 F-5）

悠生寮の上側にある大きな岩のそばにある山の神。

祭りは 1 月 7 日に行なわれ、弓矢を作って供え物をします。この日は神様が休んでいるので、山仕事はしてはいけないと言われています。



上の山の神（地図 F-5）

東山国有林の入り口にある山の神。戦前、戦中ごろまで山仕事をする人たちの守り神。



荒神宮（地図 G-4）

本殿の江戸時代末期の竹内八十吉による彫刻は、柱の上は龍・獅子などで埋め尽くされ、東西の壁は、中国の物語を微細な彫刻で表現されており、境内にある鎌倉時代の五輪塔とともに上田市の文化財に指定されています。

拝殿に向かって左側には、頭から読んでも最後から読んでも同じ読みという珍しい和歌と俳句の廻文碑があります。



カンカン石（名号碑）(地図 G-4)

江戸時代、徳本というお坊さんが念仏の信仰を広めるために建立した名号碑。石が当たるとカンカンと高い音がするところから、通称カンカン石と呼ばれています。



60間堤防（地図 G-5）

明治 31 年（1898）の千曲川洪水のあと、村民の労力で築かれた堤防。全て千曲川の丸石が使われており、当時堤防の延長が 60 間（現在は約 260m）だったことからこう呼ばれています。



石垣のある民家（地図 G-5）

千曲川が氾濫しても大丈夫な高さに石垣を築き、その上に家が建っています。

明治 31 年（1898）の洪水では石垣の中程まで水が来たそうです。



小牧の路地（地図 G-5）

小牧の集落は洪水を避けて山際にかたまっていました。昭和 30 年（1955）代までは養蚕が盛んで、蚕室造りの民家が目立ちます。



小牧の筆塚（地図 G-5）

大福寺の和尚さんに教えを受けた寺子屋の生徒達が先生への感謝の気持ちを表したもの。筆塚は小牧にはもう一つ、旧片岡家の庭にもあります。



須川の家並み（地図 G-6）

養蚕を行っていた大きな家が幾軒もあります。

長屋門の手前は2階が1階よりせり出している出桁(だしげた)造りで、大屋根に気抜きの載った蚕室になっています。



須川の棚田（地図 G-6）

美しい棚田の景観を保全するのは大変ですが、市民の取組みの一例として、上田地域通貨「蚕都くらぶ・ま～ゆ」が荒廃していた棚田の一部を見事に再生したことが挙げられます。



須川大山祇（つみ）神社（地図 G-6）

祭神の大山祇命（おおやまつみのみこと）は、山をつかさどる神ですが、養蚕の盛んな頃は、蚕の神様として八十八夜は特に賑わいました。須川は江戸時代諏訪形の枝郷であったことから、今でも祭りは諏訪形・中村・須川で行き来をしています。



須川湖（地図 G-6）

仙石氏時代、灌漑用の池として築られました。

昭和 28 年（1953）2 月に全日本スピードスケート選手権大会が行われて須川湖の名が全国に知れ渡りました。

	<p>やっくら（地図 H-5）</p> <p>河川敷に桑を植えるために石を拾い出し畑の周りに積んだ石積のこと。川原では蚕種製造には欠かせない「ねずみっくわ」と呼ばれる葉が小さい桑が良く育ちました。</p>
	<p>長谷越え（地図 H-5）</p> <p>山から流れる沢水を、直接堰に落とさないように築かれている水路。小牧内に三箇所あり、先人の知恵を感じます。</p>
	<p>四箇牧（しかまき）神社（地図 H-5）</p> <p>祭神は住吉神で航海の神。かつて神社の裏はすぐ千曲川で、神社の向きも今と逆でしたが、参道が洪水で流されてしまい、上から下る形になりました。</p>
	<p>六ヶ村堰取入れ口（地図 H-5）</p> <p>新幹線斜張橋の下で千曲川から取入れた水を、ここで三つ（六ヶ村堰・県営水道・水産試験場）に分けています。</p>
	<p>小牧城址（地図 H-6）</p> <p>上の城と下の城からなる典型的な山城。 大正 5 年（1916）、青年団により碑とあずまやが建てられ整備されました。20 分ほどで登る事ができ、上田市が一望できます。</p>



荒神宮石造五輪塔（地図 G - 4）

鎌倉時代の作と考えられ、昭和 59 年（1984）に市指定文化財に指定されました。この五輪塔についての言い伝えなどは不明ですが、荒神宮に伝えられる木曾義仲や巴御前とかかわりがあるのかも知れません。



観音寺鰐口（地図 C - 3）

室町時代初期の永享 9 年（1437）に聖英祐が浅井寺に奉納したことが刻まれた銘によって分ります。浅井寺（青木村当郷）が廃寺になった際に観音寺に移されたものでしょう。銅製の鰐口で、昭和 43 年（1968）市指定文化財に指定されました。



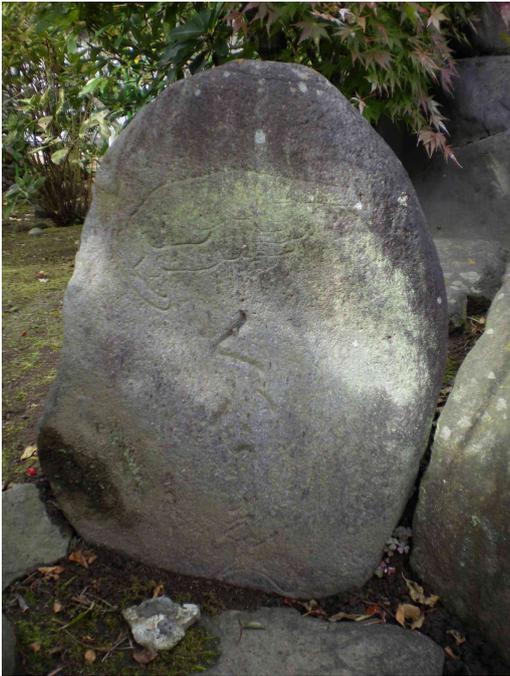
大福寺（地図 G - 5）

小牧にある真言宗の寺です。もと字六句にあって鎌倉堂といい、六坊を持っていましたが、兵火で焼失し、今の地に移したと伝えられています。



御所の水天宮（地図 F - 3）

御所の人々は、度重なる洪水の被害を少なくするために、水難防止の守護神「天御中主神」（あめのみなかぬしのかみ）に祈りました。一つ目の祠は天保 11 年（1840）に、二つ目は明治 16 年（1883）に勧進奉納されました。



荒神宮道標（地図 F - 3）

田子家の筆塚の左下に置かれています。

左手の線刻と「くハう志ん」という字が刻まれています。諏訪形の荒神宮への道標です。



御所の田玉家井戸（地図 F - 3）

「文化六年二月六日」（1810）と井戸が築かれた年号が入っています。昔は共同井戸だったそうです。



飯綱社（地図 E - 5）

倉升の産土神です。鳥居の手前左右にある石灯籠には「文化12年11月吉日」と刻まれています。祭神は「保食神」（うけもちのかみ）と『小県郡上田原村村誌』（明治14年刊）に記されていますが、『上田市誌』では「食稻魂」（うがのみたま）と記載されています。



倉升のお水神様（地図D - 5）

慶安元年（1648）に築かれたと伝えられる長池を守り続けてきた神様です。

中池・東池の埋め立てにともない昭和57年（1982）に、現在地に遷宮されました。



小牧山炭鉱跡（地図H - 6・F - 5・E - 5）

小牧山山系には5ヶ所に炭鉱がありました。倉升には金城炭鉱・日中炭鉱がありました。昭和初期から26年ころまで垂炭が採掘されていました。



地藏堂（地図D - 5）

神畑橋の北側、道路わきにあります。昔、産川に大洪水があって、橋のところに流れ着いたお地藏さんを拾い上げて、そこに祠をつくり祀ったのが始まりだと言われています。

堂内には、赤い頭巾に赤いよだれかけ姿の愛らしい立像の地藏尊が安置されています。

	<p>日天塚・月天塚（地図 E - 5）</p> <p>御所の原峠下には 3 基の古墳がありました。日天塚は、明治 41 年（1908）発掘の際には多くの副葬品が見いだされましたがいつのまにか散逸してしまいました。月天塚は明治 30 年（1897）頃には高さ 5 尺程ありましたが、いつしか取り壊されて基底石がわずかに残っています。</p> <p>沢を隔てた東側には、舟窪平の古墳群があります。</p>
	<p>神畑博打岩（地図 D - 5）</p>
	<p>上田原半地下工場跡（地図 D - 3）</p>
	<p>五輪塔石造物群（地図 C - 3）</p>
	<p>左岸堤防の自転車遊歩道（地図 D - 2）</p>
	<p>古舟橋模型機滑走路（地図 E - 2）</p>
	<p>長池桜並木（地図 D - 5）</p>

参考文献：『上田市誌 31 分冊』平成 11 年（1999）～ 16 年（2004）刊。

『史料に見る 江戸時代の城南地区』上田市城南公民館・解放会館発行。昭和 59 年（1983）刊。

『図説 上田城南地区のあゆみ』上田市城南公民館発行。平成 7 年（1995）刊。

『御所村の歴史』御所歴史研究会発行。平成元年（1989）刊。

『神畑山 超誓寺誌』神畑山超誓寺発行。平成 13 年（2001）刊。